

V 燃料デブリの取出し・廃炉

V 燃料デブリの取出し・廃炉

燃料デブリ等の取出しを開始するまでに必要な作業は高線量下にある原子炉建屋内などで行われる。現在、炉心に注入した冷却水が原子炉圧力容器や原子炉格納容器から漏れいている状態にあるが漏れ箇所が確認できていないため、燃料デブリ等を取り出すための具体的な方法を確定することが難しい状況にある。しかし、原子炉格納容器に水を張るためのバウンダリを構築し、水中で作業することが最も放射線遮へいに優れた方法であると考えていることから、まずは漏れ箇所の状況等を確認した上で、原子炉格納容器の止水など状況に応じた対策を講じるものとする。燃料デブリ等については、未臨界を維持しながら安全に取り出し、飛散防止や遮へい・冷却など適切な災害防止措置を講じて保管するものとし、必要な技術開発を進めていく。

また、廃炉作業を速やかに安全に行うため、まずは除染や遮へい等により原子炉建屋内の線量を低減させる措置を講じるものとし、必要な技術開発を進めていく。

なお、実施計画へは、上記技術開発を進めた上で具体的な方法等が確定した段階で反映していく。